

「群馬県全35市町村訪問終了」

令和6年度も前年度に引き続いて、7月24日から9月26日にかけて県内全35市町村を訪問させていただきました。

今年度は、教育委員会担当者と総括コーディネーターだけではなく、新たに任命した5人のコーディネーターから1名、スポーツ振興課、義務教育課、県スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ担当者と多人数で訪問させていただきました。

総括コーディネーターとして、感じたことを裏面に記しますのでご一読ください。訪問に際して、お忙しい中また酷暑の中でご対応いただいた市町村担当者の皆さんへ心から感謝申し上げます。

スポーツ庁・文化庁の最新情報

スポーツ庁と文化庁は、8月23日「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」(以下、実行会議という)を開催しました。

この実行会議の主な検討課題は、以下のとおりです。

- (1) 地域クラブ活動への移行に係る課題の整理・解決策について
- (2) 令和8年度以降の地域クラブ活動への支援方策等について
- (3) ガイドラインの見直しの論点整理について
- (4) その他

実行会議の下に、スポーツ部門WGと文化部門WGが組織されています。

スポーツ部門WGは、第1回WGを8月29日、第2回WGを9月18日に開催しました。

実行会議の検討課題で注目する点は、「令和8年度以降の地域クラブ活動への支援方策等」です。

第1回WGは、中之条町を訪問する時間と重なってしまったので、冒頭の30分のみ視聴でした。

第2回WGは、草津町訪問の後でしたので、移動する車内で音声のみでしたが全てを視聴しました。

第2回WGでは、「部活動の地域移行という呼称について」、「指導者の育成」、「中体連大会について」、「部活動改革推進期間について」、「令和8年度以降の方針について」等を議論していました。

この実行会議・WGに対して決定事項等の答申または提言が出るまで待つのではなく、自分事として意見をスポーツ庁へ現場の声を伝えることが大切だと考えています。

私は、第2回WG視聴した後で、私見をスポーツ庁担当者へメールしました。市町村担当者の皆さんからも現場の声を寄せていただければスポーツ庁へ伝えるべき事項について伝えるのでご意見がありましたらご連絡ください。

【下記をクリックして実行会議について情報収集してください】

[地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議\(第1回\)](#) 配布資料: スポーツ庁 (mext.go.jp)

[地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議](#) | 文化庁 (bunka.go.jp)

【群馬県内全35市町村を訪問した感想】

(1) 実証事業市町村について

令和5年度から実証事業を実施している前橋市、吉岡町、玉村町、榛東村、渋川市については、課題が明確になっていることから課題解決に向けた活動に進みやすくなっている印象があります。もちろん、まだ始めたばかりの市町村もあることから課題解決に向けた活動を模索している現状もありました。

令和6年度から実証事業地域となった沼田市、伊勢崎市、館林市については、進捗状況にばらつきが見られましたが、推進計画を策定して、コーディネーター役も配置された地域もあり着実に進ませようとする姿勢を感じました。

(2) 他の27市町村について

① 市部について

県内の市部の多くが平成の大合併のために旧市部と合併地域との環境の違いが大きく一律に進めることは困難な状況にあり、合併地域の多くが人口減少地域で、取り分け0歳から14歳までの人口減少が激しくすでに学校単位で部活動を継続的に活動することが困難な状況にあります。

そのような理由から部活動指導員を活用した「部活動の地域連携」として合同部活動方式または拠点校方式によって進めている市が昨年度よりも多くなっていました。

② 町村部について

全ての地域が人口減少となっていて、やはり0歳から14歳のまでの人口減少が激しく学校単位はもちろん、町村単位単独の活動も困難な状況になっています。特に、利根郡、吾妻郡、邑楽郡、多野郡の高齢化が進んでいる地域では地域活動を維持するために工夫している町村が多くありました。

その中で、昨年度よりもできることをできる範囲で行い、なんとか地域の青少年達の活動を確保する努力を実施している町村が多くなっていました。

(3) 総括コーディネーターとしての感想

① 実感した少子高齢化による地域力の確保の難しさ

ほぼ、全ての市町村が「スポーツ(体育)協会の高齢化とスポーツ推進員の高齢化」による地域活動が困難になってきているという意見がありました。しかし、こうした地域の中でも地域力確保策として様々な工夫を行っている地域もあり、こうした取組を他の市町村に情報共有する重要性を感じました。

② 主役である中高校生から直接意見を聞く機会の創出

県教育委員会として開催した中高校生から直接意見を聞くワークショップについて説明しました。市町村としても是非、アンケートだけでなく直接意見を聞く機会を設けることをお願いします。

③ 市町村域を超えた地域クラブ活動を模索する必要性

市町村の規模に関係なく、単独市町村で解決することが困難な事案は、広域で検討する必要がある、特に少子高齢化が顕著な郡部については早急に検討する必要があると感じました。

④ 2年連続して35市町村を訪問して感じた反省点

部活動の地域移行(改革)の本質が市町村担当者並びに保護者等に対して正しく伝えられていない事実もあり、今後も改革の本質を伝える努力を継続する必要があると感じました。

(4) スポーツ庁地域スポーツクラブ活動アドバイザーの活用について

昨年度もこのレター等で周知した制度ですが、未だに浸透していないと感じました。地域スポーツクラブ活動アドバイザーは、全国に小出総括コーディネーターを含む11名が任命され、講師として招く旅費・謝金はスポーツ庁から支出されるので活用すると有益であることを伝えました。

ここをクリック⇒[アドバイザー事務局：スポーツ庁 \(mext.go.jp\)](https://mext.go.jp)